



この日のテーマは「人生カクツツ」。持ち寄られたのはD・カーネギー「道は開ける」、新藤戸福造「武士道」、オタ・マツチーノ「十二番目の天使」、加藤謙三「やさしい人」と、ハラハラなのが面白い。また、本の著者をゲストに呼ぶことも。

話す方が自身につき：★★★★★  
語を有効活用：★★★★★  
良い本の情報も：★★★★★



**朝** 活というと出勤前の会社勤務という人が多いかと想像したが、実際は職業も年齢もさまざま。朝はどんな職種の人でも時間の都合をつけやすく、垣根のない繋がりを生むのに好都合なのだろう。この東京朝活読書会では、課題図書ではなく一つのテーマを決め、それに沿った本をそれぞれが一冊ずつ持ち寄る。テーマが決まってもそれぞれをどう捉えるかは人それぞれ、本のジャンルに指定はな

く、文学作品でもビジネス書でも構わない。簡単な自己紹介のあと一人ずつ自分の持ってきた本についてプレゼンする。初対面の人の中で自分の言葉で話すのは相当な労力が要るはず。だが自分の好きなものについてならどうもみな緊張した様子もなく、伝えたいことを楽しんでいる。新たな発見で養えるなら、これ以上の時間有効活用はないかもしれない。

## 東京朝活読書会

本を介して互いが刺激しあう自分磨き

3 Data

毎週月曜日7:10~9:00。恵比寿駅からすぐのカフェで開催。参加費は各自注文する飲み物代、1回の募集人数は10名。先着順で定員に達し次第締め切り。詳細や参加の申し込みはFacebookへ。http://www.facebook.com/foyoasakusu



## 東京読書会

一つの物語を、様々な角度から味わいつくす

3 Data

毎月第1日曜、都内のカフェ(個室)で開催。参加費は各自注文する飲み物代+個室代(¥300ほど)。1回の募集人数は10名。先着順で定員に達し次第締め切り。詳細や参加の申し込みはHPへ。http://dookushokakai.blog.fc2.com/



次の課題図書は参加者エラストで決めている。すでにいってもそうであるが、今日は「みんなと一緒に読みたい」との理由で、三島由紀夫「鍵」に決定。読書会も希望者を募り食事会も行

話の深読み度：★★★★★  
解釈の自由度：★★★★★  
名作の登場頻度：★★★★★

**まだまだあるよ!**  
FacebookなどのSNSが基盤のところ、カフェが主催するものなど形態は多様。時間帯も色々なので参加しやすいところを探してみて。

### 猫町倶楽部

規模は国内最大の牽引役読書会「ライオンズ」の東京、名古屋、京都の3都市それぞれ毎月読書会を開催。課題図書の話りが必須条件。盛り上げるためのツールとして設けるドリンクコードも特徴だ。1回の募集人数は100名。参加費は変動するが、ドリンクなど込みで¥2000ほど。詳細や参加の申し込みはHPへ。http://www.nekomachi-club.com/

1回の参加者数：★★★★★  
カフェの成行き：★★★★★  
参加者の意欲：★★★★★

### マンガナイト

面白さを再発見した読書会「マンガナイト」が特徴だ。1部で交読会を行う。運営メンバーを含めた参加人数は30名〜。参加費は1・2部各¥1000(1ドリンク付き)。参加する場合はマンガを持参。年4回開催。次回は7/28「マンガナイト & 3周年祭り」が秋葉原で行われる。詳細や参加の申し込みはHPへ。http://manganight.com/

マンガ専門の珍しさ：★★★★★  
自作に出会える：★★★★★  
他の活動も魅力的：★★★★★

**名** 作と呼ばれる作品ほど、いつかそのうちと後回しにしてしまうことはないだろうか。また過去に読んだことはあっても、すでに記憶がおぼろげだったり。そんな古典文学をあらためて読み直そうというのがこちらの読書会「銀河鉄道の夜」。一人ずつ感想を述べていくのだが、同じ物語でも読み手が変わると抱く印象はこうも変わるのかと驚くほど、各自が

食い違う点もむしろ興味深い。また古典作品は現代ものと比べ、作家の思想や書かれた頃の時代背景などからいろいろに深読みしやすいようだ。「実は〇〇は××だったんじゃないか?」などと仮説を立て始めると、膨らむ想像はとどまることを知らない。だが自由な解釈を共有し、その幅を広げること、読書会の醍醐味のひとつ。一篇の物語が秘めたさまざまな表情を、あなたも一緒に覗いてみては。

